

新たな技術の活用による都市交通調査分析・計画手法の効率化・高度化に関する研究



(研究期間：平成27年度～平成30年度)

都市研究部 都市施設研究室 室長 中西 賢也 主任研究官 吉田 純土

(キーワード) ビッグデータ、パーソントリップ調査、都市交通

3.

生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

1. 研究の背景と目的

近年、都市交通分野においても様々なビックデータ活用に関する研究・実用化が急速に進んでいる。しかし、各事業者が提供しているビックデータは、その利用者属性等により偏りがあると考えられることから、パーソントリップ調査（以下、PT調査という）との比較を通じて各交通関連ビックデータの特徴を把握する。

2. 比較対象データ

交通関連ビックデータのうちA社が提供している「携帯電話基地局運用データ」とB社、C社が提供している「GPSデータ」を対象として、平成24年に実施された熊本都市圏PT調査と比較する。

3. 比較検証結果と今後の展開

小ゾーン間OD量について、内々トリップと内外トリップを比較した結果を図1～3に示す。ただし、C社データはデータの特性上、トリップ数の構成比を用いて比較した。その結果、45度線からの乖離状況など各社のデータごとに特徴が違ってくる。

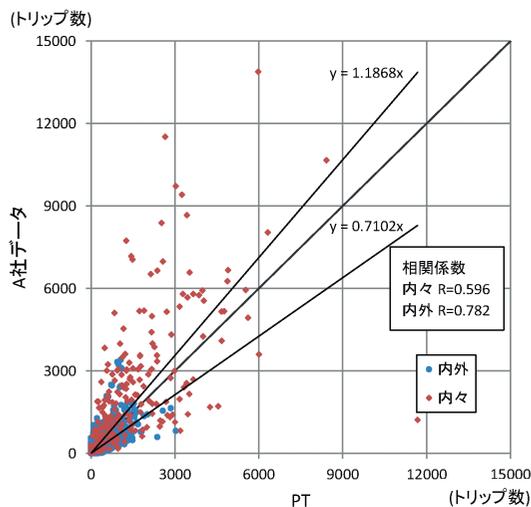


図-1 A社データとの小ゾーン間OD量の比較

交通関連ビックデータの活用にあたっては、その特性を把握して利用することが重要であり、それを踏まえた活用方法を検討していく。

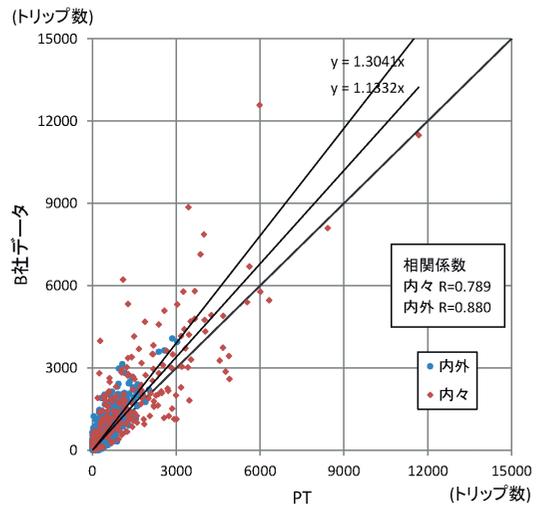


図-2 B社データとの小ゾーン間OD量の比較

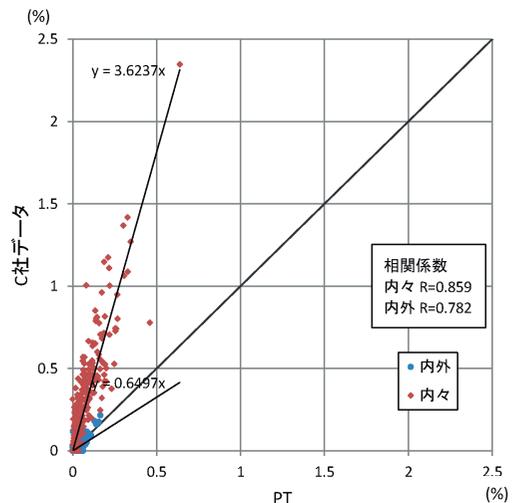


図-3 C社データとの小ゾーン間OD量(割合)の比較

☞ 詳細情報は [こちら](#)

1) 「パーソントリップ調査データと交通関連ビックデータの比較検証」, アーバンインフラ・テクノロジー推進会議 第30回技術研究発表会, 2018. 11